



# なでしこ

【校風】かしく なかよく たくましく 【教育目標】進んで学ぶ子 たがいに助け合う子 かっぱいやりぬく子

令和8年2月2日  
さいたま市立谷田小学校  
TEL 882-2980  
FAX 811-1334  
<http://yada-e.saitama-city.ed.jp>  
【在籍児童数】 599名

## 感謝の気持ち

校長 村田 寿一

大寒を過ぎ、日本列島全体が数年に1度という規模の寒波に見舞われ、暦通りの底冷えする気候となりました。旧暦では2月を「如月(きさらぎ)」といいます。が、「如月」は草木が生え始める月なので、「生更木(きさらぎ)」とする説や、暖かい陽気が更に増してくる頃なので「気更来(きさらぎ)」とする説、草木の芽が張り出す時期なので「草木張り月(くさきはりつき)」が転じたとする説など、いくつかの説があるそうです。旧暦は今の暦よりも1か月ほど後になりますので、3月頃といえば、ちょうど春の到来に喜びを感じ、何もかもが明るく伸びていくという気持ちがこもっているため、古来からこのような言い回しが生まれたのだと思います。他にも2月は、節分、豆まき、雪、梅の花等の季節を表す言葉が使われ、日本ならではの情景が思い浮かびます。谷田小では保護者・地域の皆様と連携し、様々な季節を意識した学習活動、体験活動を行っています。先月10日には、青少年育成谷田小地区会の皆様が主催して下さった毎年恒例の凧揚げ大会が行われ、多くの子ども達が手作りの凧をあげて楽しんでいました。また、校内では書きぞめ会が行われ、学校公開に合わせて展示し、鑑賞していただきました。今月は、いよいよ立春を迎えます。春の足音は、まだ遠い気がしますが、校舎周辺の木々の小さな新芽に新たな季節が近づきつつあるのを感じています。校庭では、寒さを吹き飛ばすように元気に遊ぶ子どもの声が響き、元気をもらう毎日です。

さて、1月24日は何の日だったかご存じでしょうか。学校勤めでないとなかなか浮かばないかと思いますが、実は「給食記念日」だったのです。これは、明治22年に山形県の忠愛小学校という学校で、当時多く存在していた貧困児童の救済を目的とした昼食提供が始まったことに由来しているそうです。その後、この給食という制度は全国的に広がり、子ども達の健康を支えるのはもとより、食育という教育の大切な柱としても発展してきました。谷田小では、栄養バランスを重視した献立を基本としながら、埼玉県という地域の地場産野菜の活用した食文化を取り入れた献立や、日本全国の地域の伝統を学べる献立など、谷田小だけの特色ある給食が提供されています。谷田っ子たちは皆毎日の給食を楽しみにし、「おいしいね。」と笑顔で食べてくれています。その給食は、言うまでもなく学校栄養職員や調理員さん達の細やかな心配りと熱意によって支えられています。先ほどお話しした献立は学校栄養職員の岡田さんが、様々なことを勘案して谷田っ子のためだけに毎月練り上げてくれています。そして調理過程では、複数の職員による安全点検が必ず行われ、食材は素材の味を生かせるように切り方や煮方などの調理法を工夫したり、味の決め手となる出汁は、自然素材から丁寧に時間をかけてとったりするなど、味と安全へのこだわりが随所に感じられるものです。また、アレルギーのある児童への対応もきめ細やかで、食材の確認や調理工程の分離など、どの子どもも安心して食べられるよう慎重に準備されています。こうした普段は見えない努力が積み重なり、毎日温かくおいしい給食が子ども達のもとへ届けられています。給食を楽しみに登校し、みんなと一緒に「おいしいね」と笑顔で食べるその時間は、心と身体の成長にとって何より大切な学びのひとつです。

谷田小では1月19日から23日の週を給食週間とし、食の大切さを考えるとともに、日頃お世話になっている給食室の皆さんへ感謝を伝える機会としました。各学年で様々な感謝を考え、子ども達が主体となって工夫した取り組みを行いました。これは子ども達が地域の未来の創り手として、お世話になっている方々に「何ができるのか」「どのようにできるのか」等について、話し合い、実践につなげるという経験でもあり、将来に活かせる大切な体験となると考えています。そして、「ありがとう」が、あふれる学校・地域となることで、行為にこめられた思いは一方通行ではなく双方向のやりとりとなり、全ての人の Well-being 向上につながるのではないかと考えています。

令和7年度も残すところ2か月となりました。子ども達が健やかに学び、豊かな学校生活を送れるよう、そして自信をもって進級・進学できるように教職員一同、生活・学習面でのまとめをしっかりと行ってまいります。もし、これまでのこと、これからのことで解消できていないこと、不安なこと等がある場合には、担任までお声かけいただき、一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。